

# ほほえみの会

2012.4.8

人は笑うことで血液中のナチュラルキラー細胞が活性化し、がんに対する免疫力を高めるということが実証されています。

「ほほえみの会」も子どもたちに多くの笑顔を送って、子ども自身が持つ「生きる力」を高めてほしいと会の名前を付けました。

しかし、反対の泣く、嘆くという気持ちが身体にどう作用するのかという検証はありません。

五木寛之さんは著書「悲しみの効用」のなかで、人は悲しむとか、嘆くとか、迷うとか、絶望するとか、そういうことによっても自然治癒力が上がることがあるのではないかと、説いています。

人はもやもやした時に、涙を流して泣いたりすると、すっきりすることがある。そうした「悲しみの効用」というもの、悲しむことによって取り戻される人間性というものがあるのではないかということです。

<199回 1/8ほほえみの会>  
2名の参加でした。

<200回 2/12ほほえみの会>  
2名の参加でした。

<201回 3/11ほほえみの会>  
4名の参加でした。

▽ 中学3年の女の子、甲状腺がんで県立総合病院で手術を受けたが、医師の説明も不十分で不満。病院内の「患者の声」に不満を書いたら事務の方からお詫びの手紙が来た。わかってくれる人がいて良かったが、親の不満ショックは消えない。こどもの経過は順調だが親の心のケアの方が深刻。

<202回 4/8ほほえみの会>  
5名の参加でした。

▽ 5歳の女の子、脳腫瘍。2月から外来で化学療法を始めた。髪の毛が抜け始めたが、親としてどう対処していいかわからない。

参加者の体験談として、幼稚園で髪の毛のことを言われることもあったが、本人は自分で見えないこともあり、親が思うほどには気にしていない様子だった。頭をカバーする意味でも可愛い帽子を用意して本人も楽しみにしていた、という話がありました。

また、脳の内部の腫瘍で生検が出来ない。本人も閉じこもる。この先どうしたらいいか。学校にどういう気分で通わせたらいいかわからない。体験談としては親も一緒に哀しみ泣くしかないこともあった。でも親があまり深刻にならず楽天的に考えた方がいい。学校も本人がいじめられていきたくないということもあったが、嫌ならば行かなくてもいいと言っていた、という話がありました。

さらに、食が細くあまり食べない。ジャンクフードばかりほしがるとい話もありました。治療を始めると食欲はなくなり、味覚が変わることもよくあることなので、あまり心配することはないのではないか。という話がありました。

▽ 病気の再発によって亡くなられた子のお母さんも参加してくれました。治療中は医師や看護師に本当によくして頂いたと感謝していました。ありがとうございました。

次回 は5月13日(日) 11時からです  
ほほえみの会 代表 池田恵一 TEL054-247-9560

E-mail アドレス k\_likeda@yahoo.co.jp

ホームページ <http://www.geocities.jp/hohoeminokai/>